

出題分析		
試験時間 90分	配点 150点	大問数 5題
分量 (昨年比較) [減少 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同程度</span> 増加]		難易度変化 (昨年比較) [ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">易化</span> 同程度 難化]
<p><b>【概評】</b></p> <p>大問数は昨年度に引き続き5題であった。形式に大きな変化はなく、長文読解問題が2題、会話文問題が1題、語彙問題が1題、和文英訳問題が1題という構成で、記述式の問題は和文英訳問題のみであった。大問1は文理を問わない社会的なテーマを取り上げているが、大問2や大問4は理系分野からの出題である。大問3の会話・メッセージを題材とした出題のほか、大問1の小問として2021年度以降出題されていなかった発音問題が出題されるなど、全体として様々な分野・形式を含む問題となっている。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	長文読解問題 「ジェンダー・ステレオタイプに基づく『思考と感情』の二元論の解体」	計19問の出題。昨年度まで出題されていた語順序問題や前置詞の空所補充問題がなくなり、代わって発音問題とタイトル選択問題が出題された。英文の内容は比較的理解しやすいが、要求される語彙力は高く、難易度は標準的である。	標準
2	長文読解問題 「アスリートが抱える不整脈のリスク」	同意語選択問題と、複数の選択肢から対応する内容を選ぶ問題の計19問が出題された。文章中に専門用語が含まれるうえに、複数の人物の情報を整理して読み進める必要があるが、選択肢が平易な表現で構成されており、難易度は標準的である。	標準
3	会話文問題 「ある男女のやり取り」	昨年度同様、男女の人間関係をめぐる英文からの出題であった。[1]の会話からは同意表現選択問題が、[2]のメッセージからは空所補充問題が、計12問出題された。問われる表現やイディオムのレベルは低くないが、日常的な場面設定で状況は理解しやすい。	やや易
4	語彙問題	空所補充問題が5問出題された。空所を含む英文は最長で2行程度と短い。内容は専門的である。文法や単語の知識のみでは解けない問題も含まれており、解答には科学にまつわる知識を踏まえたうえで、英文の内容を把握する必要がある。	標準

設問別講評			
5	和文英訳問題	下線部を英訳する和文英訳問題が 1 問出題された。使用する単語の一部が指定されており、解答が比較的作成しやすい。訳出において、難易度の高い単語や構文が必要ないという点においても取り組みやすい問題である。	やや易
合格のための学習法			
<p>慶應義塾大学理工学部では、難易度の高い専門的・抽象的な内容の英文が出題されることが多い。そのような文章を読み慣れていないと、解答にかなりの時間を要するため、日頃から様々な分野の内容の長文に触れ、また同時進行で語彙力の増強に努めてもらいたい。形式としては会話文問題や語彙問題、和文英訳問題、発音問題といったように年度によって出題形式が様々である。来年度以降も現在の傾向が続くとは限らないため、様々な形式に対応できるよう、バランスよく学習を進めておくことが重要だ。過去問で出題形式に慣れることに加え、時間に余裕があれば他大学の問題を解き、記述力を養成するとよいだろう。</p>			